



# 営農通信 第102号

令和2年8月 JA都城：資材課



## 原料甘藷坪掘り調査について

7月15日～16日に甘藷の坪掘り調査が行われましたので、ご案内いたします。  
(3月下旬から4月中旬定植ほ場で10株抜き取り調査)



### 【コガネセンガン】

単位：トン

圃場	定植日	マルチ	土質	収量	圃場	定植日	マルチ	土質	収量
沖水	3/29	生分解	水田	2.11	高城	3/26	透明	畑	1.62
祝吉	4/10	黒	畑	1.35	山之口	3/15	黒	畑	1.39
五十市	3/26	黒	水田	2.07	姫城	4/19	黒	畑	0.82
庄内	3/28	黒	水田	1.95	安久	4/7	黒	畑	1.22
山田	3/29	黒	畑	1.30	三股	3/30	黒	水田	1.61
高崎	4/1	黒	水田	1.20	梅北	4/15	黒	畑	1.00
志和地	3/31	黒	畑	1.58	平均				1.48

※6月から7月にかけて日照時間が短く降雨も続いたことから収量に影響があると思われます。

## 水稻防除注意報

### ●対象病害虫：トビイロウンカ（秋ウンカ）



本年は、7月上旬に非常に多くの飛来があり、発生面積及び株あたり虫数が過去10年間で最も多い状況です。

防除を徹底すると共に、病害虫発生情報等に注意をお願いします。

また、収穫期にかけて、坪枯れの被害が懸念されますので、水田をよく観察し、生息する場合は、確実に薬剤防除を実施しましょう。

### ●推奨薬剤

・無人ヘリ散布ほ場：**トレボン（粒剤・乳剤・粉剤等）**

※ヘリ散布後、飛び込み等で生息を確認した場合は、追加で防除してください。

・それ以外のほ場：**スタークル（粒剤・液剤・粉剤等）**

株元に生息するウンカ類への防除効果を高めるために、可能な限り水田に水をためて、薬剤は散布しましょう。

また、粒剤を散布する場合は、4～5日間は湛水状態を保ちましょう。



### ●防除適期

・8月中旬から8月下旬

### ●注意

①飼料用稲（WCS）も、使用可能な農薬（スタークル等）に留意して、防除を行ってください。

②農薬の使用に当たっては、必ずラベルを確認するとともに、他周辺作物への飛散防止を徹底しましょう。

③薬剤散布後も、地域やほ場により発生状況が異なる場合がありますので、引き続き、病害虫の発生状況を確認しましょう。

## 新しい低コスト肥料のご紹介

園芸向けの新しい低コスト肥料をご紹介します。

### 『新豊菜263』

N12-P16-K13 苦土3 ホウ素0.3（燻製骨粉入り）

果菜類、葉菜類、根菜類、果樹等、幅広くお使いできる化成肥料になります。

※商品は注文になりますのでお早めにご注文下さい。

価格については最寄りの営農経済課、営農サポーターにお問い合わせください。



## 農薬の基礎知識

### ●殺菌剤の特性

殺菌剤を取り扱う上で、「予防効果」と「治療効果」というキーワードがあります。

- ・**予防効果（保護殺菌剤）**：病原が作物に侵入するのを防ぐ作用
- ・**治療効果（浸透性殺菌剤）**：すでに作物体に侵入している病原を抑制する作用。浸透移行性に関わる

「**予防効果**」しかない薬剤については、作物が病気にかかる前に使用する薬剤になるので、病気に罹病している作物に散布しても効果は発揮されません。

また、「**治療効果**」のある薬剤については、あくまでも「すでに作物体に侵入している病原を抑制する作用」になるので、病気を完全に治すわけではなく、それ以上、病状が悪化しないようにする効果になります。殺菌剤の散布については、病気が発生する前の事前散布が基本になりますので、注意しましょう。

※浸透移行性：作物の葉等にかかった薬剤が茎を通じて浸透し、作物のほかの部分にまで移行する作用。

※浸達性：作物の葉表にかかった薬剤が葉裏まで移行する作用。別の葉には、移行しないので散布ムラに注意してください。

※残効性：病害防除効果がどのくらいの期間持続するかということ。**予防効果主体の薬剤が実用的な効果を示すためには、この特性が重要になります。**

通信内容のご相談は営農サポーターまでご連絡ください

（文書取扱：JA都城 資材課）